



5年の歳月を経て完成した「平成おやまだ村誌」

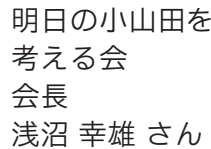
小山田地域コミュニティ会議「明日の小山田を考える会」では、平成19年に歴史編さん委員会を発足し「歴史編さん事業」を展開してきました。平成24年3月に「平成おやまだ村誌」を完成させ5年にわたる事業を完了しました。

### 地域の歴史と文化を共有 明日の小山田を考える会



東和町北川目  
浅沼 盛さん

妻が神楽に参加している昔の写真が掲載されていることもあり、大変興味深く見ることができました。忘れかけていた過去のさまざまな出来事について振り返る機会を得ることができる、大変良い資料(郷土誌)が完成し、うれしく思っています。



明日の小山田を  
考える会  
会長  
浅沼 幸雄さん

地域づくりを進めていくと、我々が生活している基盤は数多くの先人の方々の知恵と努力の積み重ねによる歴史のもとにあることに気がかされます。ぜひご一読いただき、明日へ向かって地域が発展していく糧としていただければ幸いです。

Interview

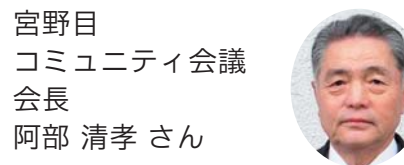
写真や具体的な数字、広範な資料データを用的に詳細に解説してあります。その内容は専門書に匹敵するような充実ぶり、小山田地域の歴史や文化について地域住民が共有すべき資料が凝縮されています。今後の地域づくりを考える際に、住民が共有すべき礎となることとしましょう。



▲完成した「宮野目一里塚」  
◀地元の皆さんが力を合わせて復元しました

このことから郷土のため、幾多の試練を克服し、今日の繁栄を築く。緑豊かな田園地帯である宮野目地区は、高速交通の要衝として大規模開発が行われてきました。それに伴い、先人の残した多くの遺跡や名所旧跡が消失。さらにそれらを記憶している方々も年々少なくなってきました。そのため、長年の研究による歴史書を活用しても確認が難しくなっています。

### 先人たちの足跡を後世に 宮野目「ミニコミュニティ会議



宮野目  
コミュニティ会議  
会長  
阿部 清孝さん

地域のことを一番分かっているのは、その地域に住んでいる自分たちではないでしょうか。コミュニティ会議では、地域づくり交付金を有効に活用し、創意工夫したさまざまな事業を展開し、参画と協働で住みよい地域づくりを進めています。

Interview

本年度は、戦後の地図に現在の地図を重ね、旧地名史跡・文化財などを表示した歴史マップの作成を進めています。宮野目地区では、「優しい・きれいな宮野目」と「笑顔の宮野目」を目指した事業を進めています。本年の地域元氣フェスティバルで頂いた応援賞「地域づくりの基盤が固まったで賞」を現実のものとしていくため、より一層推進します。

これまでの、旧跡地5カ所由来、伝説などを記述した案内板を設置。日本橋から一三ー里に当たる「宮野目一里塚」の復元整備を行いました。



災害時の生活用水として湧き水を確保

八重畑コミュニティ協議会では、災害時の備えとして飲料水の確保に取り組んでいます。平成20年度から始めたこの事業では、地区内14カ所の湧き水の調査を実施。全ての箇所ですべて調査に適合する結果を得て、緊急災害時用生活用水として指定しました。また平成21年度には、八重畑地区緊急災害時用生活用水整備事業補助金の交付要領を制定し、その整備を行う経費に対し補助してい

### 地域で取り組む災害時の備え 八重畑コミュニティ協議会



石鳥谷町八重畑  
大竹 佐久子さん

湧き水を常に良好な状態に保つために、必要な管理について情報を共有したいと思います。



石鳥谷町八重畑  
川村 茂さん

八重畑全地区に湧き水を確保し、その周知ができたことは、地域の安心・安全につながりました。



八重畑  
コミュニティ協議会  
会長 佐藤 芳彰さん

緊急災害時において、生命線でもある水の確保を通じ、地域の絆が深まったと感じています。

Interview

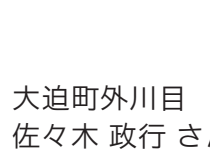
平成22年度には、湧き水も掲載された防災マップを作成し、全戸に配布しました。平成23年度には八重畑地区自主防災会連絡協議会の防災訓練で湧き水利用の訓練を実施し、生きるために不可欠な水をテーマに地域全体で災害時に備えています。



休耕地を活用した梅の里づくり

外川目地区コミュニティ会議は、平成20年度より梅の里事業を展開しています。高齢者でも比較的簡単に収穫でき、休耕地を活用できるなど、地域の現状を受け入れながら取り組める事業と考えています。地域づくり交付金を活用して、これまでに216本の梅の木を定植。6年目を迎えたことは、収穫量が増えました。平成22年度には農協とワイン会

### 梅パワーで住民参画を実現 外川目地区コミュニティ会議



大迫町外川目  
佐々木 政行さん

この事業によって、春には満開の梅の花が外川目地区を彩ります。また、自分たちが育てた梅がワイン作りに役立つということが励みになります。将来は、梅の花の下、みんなで梅ワインで乾杯を！



外川目地区  
コミュニティ会議  
会長  
浅沼 利一郎さん

地域内で梅の木を植える人が少しずつ増え、現在では600本以上と出ています。女性の方々もいろいろな加工品を手探りで考えるなど、住民の方々が大きな夢に向かって一歩一歩前に進んでいます。来年の梅の花が咲くのが今から楽しみです。

Interview

社の協力を得て、収穫した梅を原料に、梅ワインの製造・販売をスタート。梅の香りと甘みが口いっぱいに広がる飲みやすいワインと好評です。今後は、梅の安定的な生産を目指し、外川目の梅パワーを広めていけるよう、地域一丸となって取り組んでいきます。